

親愛なる皆様

10月24日のコンサートで私は、ムソルグスキー、ブラームス、ショパンという3人のロマン派の巨匠の音楽を披露致します。そして、ブルガリアの「巨匠」であるヴラディゲロフの音楽も保坂佑亮氏によって紹介されます。

それぞれの作曲家たちは彼ら自身の精神性について語っていますが、天才たちのこれらの言葉なきストーリーを通し、私たちは彼らの国民精神を認識していきます。

M.ムソルグスキー (1839-1881) - 展覧会の絵

19世紀はショパン、ブラームス、リストなどに代表されるように、ヨーロッパのロマン主義の真っ只中でした。ロシアでは1つの個性が現れ、それはある未知の世界が音の中で語られます。それはロシアの人々の実際の生活だったり、彼らの日常生活や自然による絵画の再現であったり、おとぎ話のファンタジー、人々の強大な力、人々が賑わう行列や祝日の鐘の音だったりします。音楽が小さな子どもや庶民へ熱いシンパシーを吹き込み、ロシアの精神の威厳を放ちます。M.ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」はヨーロッパの舞台でセンセーショナルを巻き起こしました。2019年はこのロシアの天才の生誕180周年にあたり世界中で祝福されています。この機会によく知られている全曲を演奏します。詳細は次のとおりです。

プロムナード、こびと、古い城、テュイルリーの庭、ブイドロ、殻をつけたひな鳥の踊り、サミュエル・ゴールドンベルグとシュミュイレ、リモージュの市場（フランス）、カタコンブ、鶏の足の上の小屋、キエフの大門。

J.ブラームス (1833-1897) - Op.117より2つの間奏曲 と Op.118よりバラード

これらはこの作曲家の後期の作品です。作品117について、スコットランドの子守歌の一節が掲げられています。「おやすみ、我が子よ、おやすみ。お前の涙を決して見せないでおくれ...」ブラームスは自身のこの作品について「この間奏曲集は我が苦しみの子守歌である。」と書きました。それらは彼の独白、そして彼の人生の記録、闘争と敗北、希望と夢、深遠さ、ドラマ性、高貴な思い出に満ちています。しかし、その人生はより力強いものです。

F.ショパン (1810-1849) - 5つのワルツ

「ピアノの詩人」。美しさは音楽における導き手です。すべてのもの、すなわち夢だけでなく苦しみさえも美しいものでなければなりません。ショパンは16歳で故郷ポーランドを離れ、その後死ぬまでフランスに残りました。彼の母親はポーランド人であり、父親はフランス人です。彼の音楽にはフランスの優雅さとスラブの暖かさを兼ね備えています。彼の死から170年になります。

パンチョ・ヴラディゲロフの生誕120周年の機会に際し、ブルガリアのソフィア国立音楽院の修士課程に在学中で私のクラスである保坂佑亮氏(28歳、ブルガリアとフランスで3つのコンクールの入賞者)が演奏会の冒頭でヴラディゲロフの3つの作品を演奏します。このようにして、日本のピアニストの演奏によってブルガリアの魂は、ロシア、ドイツ、フランス、ポーランドの魂とともに響くでしょう。

ジェニー・ザハリエヴァ